

3. エリア外ジオツアー実践例

(1) 第9回日本ジオパーク全国大会アポイ岳大会ポストジオツアー⑥ 「馬産地日高のルーツをさぐる」

ねらい	日本の種馬生産の9割を占める北海道日高地方。北海道開拓使が設置した新冠御料牧場と日本一の桜で有名な「二十間道路」、国の重要文化財「龍雲閣」は、それぞれ馬産地日高のルーツにつながる。なぜ日高地方が日本一の馬産地なのか、地形・気象・歴史的背景から解き明かす。
ガイド	・アポイ岳ジオパーク認定ガイド 3名 ・日高管内学芸員 2名
内容	10月7日(土) 大会終了後、宿へ移動 10月8日(月) 宿泊施設→JRA日高育成牧場→馬事資料館(浦河町)→三石道の駅→シャクシャインの丘→あま屋(昼食)→龍雲閣→新冠道の駅→新冠泥火山→新千歳空港
まとめ	<p>なぜ日高地方が日本一の馬産地なのか、地形・気象・歴史的背景から解き明かすこと。牧場をつくる土地は河岸段丘であること。この河岸段丘をつくった力が、日高山脈をつくるプレートであることを感じる内容とした。アポイ岳ジオパークの特徴であるプレート活動が、馬産地日高のルーツにつながることを知ることで感動につながり、地域独自性を大切にしたいという気持ち、大地の遺産を大切にしようという気持ちにつながる可能性がある。</p> <p>アポイ岳ジオパークエリア内のみでは河岸段丘と馬の関係について語ることは難しいが、エリア外の要素を加えることでよりジオ多様性を見出せる可能性がある。</p>



JRA日高育成牧場展望所。河岸段丘地形を見ながら日高山脈の関係を考える。



JRA日高育成牧場の広大な敷地をつくる河岸段丘面。



JRA日高育成牧場における装蹄見学。



地元の新ひだか町学芸員・浦河町学芸員の話から馬産地日高について考える。



三石道の駅において、月と地球の模型を使い、かんらん岩と日高山脈について考える。



新冠御料牧場「龍雲閣」。歴史から馬産地日高について考える。

